

### 丹精込めた漆塗の作品展

#### 曲物、時絵、鎌倉彫の弁当箱

鎌倉市鎌倉山の漆工房 雅子さんが出展。

時蔵で制作活動をしてい 4人の弁当箱作品展が 11月21日から28日まで鎌 倉芸術館で開かれる。

メンバーの一人、坂本 鐵司さんは、「同じ形の 木地を作って分け合っ て、それぞれで塗ってい く」といって違ったもの ができておもしろい」と 話す。ほか横瀬孝子さ ん、上村美知さん、川口 余点を展示。入場無料。



漆の作品を並べる遠藤さん(左)と自己で 中は休

問い合わせ坂本さん0 90・9848・261 6

#### 遠藤東子さん 使い続けたい 漆の器

鎌倉市在住の漆器作家 遠藤東子さんの作品展 が11月23日〜30日「うつ わ屋 糺の森」(藤沢市 鶴沼海岸2-6-4)で 開かれる。

「使い続けたい漆の 器」の題で、すまぐけの はしや、天然木のお椀、 銘女皿など普段使いの食 器を中心に、乾漆の花器 や能楽用の笛筒なども展 示・販売する。

遠藤 さんは 20代か ら漆器 の制作 を始め 子育て 中は休 止していたが、一段落し て10年ほど前から制作を 再開した。塗り・乾燥・ 研ぎの12工程を丁寧に施 した作品は好評がある。 伝統工芸展にも出展して いる。

### 舞台は鎌倉！ 絶賛発売中 『錯迷』

堂場瞬一著



県警捜査一課生え抜 きエリートの萩原哲郎 に突然の異動命令が下 された。赴任先は重大 事件が希な鎌倉南署。

「自分の習ったこと 誠実に仕事をしてきた。 本物を見く、触れて、真 意を確かめてほしい」と 話す遠藤さん。家の食卓 にも漆のパン皿やお椀を 使っていて、漆塗りの器 は熱や油にも強く、使う ほどにツヤを増して馴染 んでいくという。

午前11時〜午後5時、 会期中無休。糺の森0 466・51・38833

#### 「1108石橋山 封印された頼朝の軌跡」

花上雅男著

大胆な新しい仮説を展 開 石橋山で破れた源頼 朝は、真鶴から舟で安房 ・狹島に逃れたというの が定説となっている。主 地・神奈川県東甲斐川 町に残る「頼朝伝説」に 注目、箱根山中に逃れた



頼朝は箱根神社、あるいは 修験者たちの力を借り て愛川八幡山に至り、そ こから相模川を下って江 ノ島、安房・狹島に至っ たという仮説を展開。 本書の魅力は、「愛川 頼朝伝説」から「吾妻鏡」 「延慶本平家物語」を説 きながら、また多く の史料により従来の説の 空白を埋めて大胆な、ス リリングな仮説を打ち立 ていることである。 著者は、長年マーカー ケ イング・リサーチの仕事 に携わってきた。人の意 識や行動から一歩先の世 界を予測する、その時間 軸を過去に向けて様々な 痕跡や情報から真実を手 繰り寄せていく。

1800円(税別)冬 花社刊0467・23・ 9973

#### 鎌倉うずまき案内所

青山美智子著

古ぼけた時計屋の地 下。そこに「鎌倉うずま き案内所」はある。鉄の 扉を開けて細い螺旋階段 を下りていくと、小柄な 双子のおじいさんが待っ ている。名前は内巻さん と外巻さん。そして「所 長の呼ばれる生きたア ンテナ」がいる。

目標を見失い、上司 鎌倉うずまき 案内所 への関係に悩み、会社 を辞めたい20代の男 性。ユーチューバーを 目指す息子をなんとか 安心させたい母親。ノリ が良過ぎる彼氏に「プロポ ーズされ、結婚してもい いか悩む女性司書。」「お そろいの呪縛」にとらわ れて自分を抑え、クラス 別の。宝島社08・32 34・46021

#### 鎌倉朝日歌壇

香山 静子 選

顔洗う水や冷たい朝を翹まらめかせ秋西とち 作者の感性が十分に生かされた作品。 たたへ相みつ離れつ梅田球抱き殉教者のごころカーは 殉教者を見做した比喩が大変効果的である。 執拗に続く曇りに名にし負ふ彼岸花さへ十月に咲く 今泉台 下田 和夫 目の付け所がなかなか的確である。 かき鳴らす津軽三味線にむね焦がし父母と訪ねし赤秋は るか 葉山町 近藤美知子 お彼岸に運れて咲ける曇珠沙華よまも狂ふか温陽化の 世 辻堂 柳 蒼柳 満開の鶏頭咲ける野畑に朱の色落けし夕暮の空 葉山町 近藤 純 嵐来れば過ぎ去るを待つほか術はなし太古の人も今の我 等も 大船 小笹美子 「あつたの今日はいないお月さま」二歳の孫は窓 等に 葉山町 入野 裕江 鎌倉の落葉の匂いする道を歩むわが背に秋の日の暈。 葉山町 木村 敷 嫁さんの差し入れくれたおにぎりをしめしめ味わう帰国 の機内に 扇ヶ谷 鈴木 荘六 鋼響広がる朝露園の道を歩めり無沙汰を詫言て 材木座 有野裕美子

### 文学つれづれ

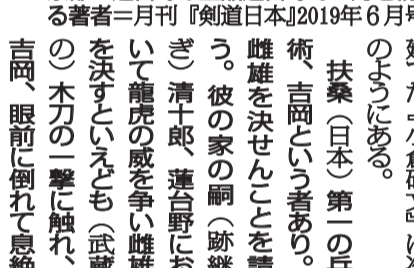
#### 吉岡英治「宮本武蔵」(5)

赤羽根龍夫

荒行で足が癒えた武蔵 は吉岡清十郎との決闘の 為に京に急いだ。五条の 大橋のたもとには、決闘 の場所は北北運台野、日 時は正月九日卯の下一刻 という高札が建てられてい た。こうして吉岡一門と 武蔵との第一回目の決闘 となる。

て逃げ出したり、一年の 修行の旅に出て宝蔵院で 試合をしたり柳生右舟斎 に会おうとする場面は英 治の創作である。実際は 清十郎が武蔵の義父・無 二に敗れた父の汚名を晴 らすために武蔵からの決闘 の申し込めを受けたので ある。

武蔵の少し笑っている 顔が、若先生の背を越し て、私の方に見えまし た。なにか 静かに、二 人は挨拶を 交わしてい るなと思う うちに、す



京都・蓮台野の上品蓮台寺で二刀を構える 著者二月刊『剣道日本』2019年6月号

は、柿色の鉢巻きに、鬘 や一太刀で清十郎を倒し たのである。この時の決 闘について武蔵の死後、 武蔵の善子の宮本伊織が 建てた『小倉陣文』に次 のようにある。

（命が助かった）。 私が若兎の発言で興味 を覚えるのは最初に武蔵 が清十郎に、笑いかけた という点である。 武蔵は吉岡一門との三度 の決闘に勝利した翌年、 『田明流』を立ち上げ、 術理の書『兵動鏡』を書 き上げる。そこには三度 の決闘の勝利の仕方が 書かれている。(赤羽根 を決すといえども(武蔵 BABジャパン) その第一条には、試合 をする時に一番大事なの は心を普段より静かにし て敵の心の内を見ることが

吉川武蔵で、武蔵が吉 岡道場で門弟を打ち据え 闘討に会うのを察知し

試合の当日、試合場所 に指定された蓮台野から 早くも武蔵と清十郎は蓮台野で立ち会っ た。

へ薦めがあったように見え ます。途端にもう、こす

武蔵は立ち合ひやいな

に、命根を補助す

星野 高士 選 片瀬 國安 佳子 天高としてその日の晴れなが伝わっている。それ にしても速いアンカーだ。 地)赤崎峠追いつ追はれつ二万歩 大船 添田 洋子 赤崎峠は上空なので歩数は一万歩、知らぬ間に歩いた 一万歩は素晴らしい。季節が鮮やかだ。 へん探し物ほら出てくる良夜かな 正に良夜の賜りもの。偶然にその日だったたのであろう が、一句にするところが面白い。良夜なのでは物語。 故里を訪ふは最後や秋日傘 植木 風見 玲子 秋日傘で季節感が出ていた。秋彼岸ではつき過ぎ。 実家より新米届く野菜添入 今泉 小林刀羊子 野菜も添えられていたことで平凡ではなくなりました。 さつまいも掘りたて履きとなりから 城廻 塩田 文字 上五中七からの展開がよく広がっていた。となりのから と表現して余韻がた。句 無花果や一人静かにうへへり 城廻 小美野京子 夜ななせり母の香残る藤花 城廻 上田 満喜 鎌倉攻め緋の色染まる彼岸花 城廻 吉田 健二 耳鳴りのひととき強く小夜時雨 城廻 出蔵かおる 台風の前夜に時雨 城廻 増田 重雄 秋の潮強きおちか過ぎ去りて 手山 高口 道宏 月上る合戸停電の宮の社 腰越 松原 薫 終電の下へなだれて帰時雨 や、寒き朝も常なる門を掃き 返子市 佐藤 信子 広重の絵図にゆかりの月こそそ りきである。私は、武 蔵は日本で最初の行動心 理学者と考えている。 山の名や松茸飯や年一度 川名 横野あさ子 虹の橋天にはゆかすもり来ぬ 大庭 青木寿美子 鶏頭を朱を消したる夕まぐれ 近藤 純 八ヶ岳山頂に浮く秋の雲 岡本 森田 孝